

学校事務の機能強化

- 基礎的・基本的業務の遂行と知識・スキルの習得
- 日常的な教員との協働（これまでの実績）
- 校内における事務総括と教員との業務シェア（とりわけ副校長・教頭、教務主任等との連携）
- 共同実施等、地域・学校間連携における企画・実践力
- ✓ これらを可能とする体系的な研修プログラムの整備の必要性

③

学校が“動く”ためには

～自発性・自主性を促す“しかけ”～

- ビジョン、ミッション
 - わかりやすい、動きやすい、はたらきやすい
 - 組織
 - 目的、権限、責任
 - チームないしプロジェクト
 - 協働、共通理解、モチベーション、雰囲気
 - 個人スキル
 - 資質向上、力量形成
- ✓ いわゆる「ピラミッド組織」「なべぶた組織」のメリット“両取り”

チームによる課題解決の必要性

- 児童生徒に関する、組織としての横断的、縦断的課題の増加
- 教職員の力量経験差の拡大（若手増加）
- 保護者・地域・周辺学校との連携協力課題の増加
- 目標設定の焦点化、優先順位の明確化
- 個別・特別の問題に対する、適切な課題設定
- 教職員間の指導的・支援的関係の構築
- 教員の子どもと向き合う時間の確保

「チーム」が「動く」とは？

- 特定の目標達成あるいは問題解決のために
- 小グループ集団による
 - 計画・実施
 - 課題の設定
- 評価ないし点検をもって終了
- 次なる課題へ
- ✓ 目に見える、動きのある、わかりやすい
「PDCA」

学校マネジメントのねらい

～「チーム」で「動く」、 “お膳立て” ～

- アイデアを持ち寄る
- 互いに教え合うコミュニケーション
- スキルを身につける
- 複数で取り組む
- 互いに見合う機会をつくり、共通理解を促進
- チームの中の役割
 - リーダー、フォロワー、ファシリテーター
- ✓ 事務職員の “合流” の必要性

まとめ 事務機能の強化と学校マネジメント

- 事務職員のミッション、アカウンタビリティ
（経営参画、管理職・教員との相互理解）
- 財務・予算の視点を活かす学校マネジメント
- 地域教育経営－学校経営－事務職員－教員
－子ども・保護者、共有する視点・つなぐ視点
- 貢献（期待）
 - 学校全体の業務改善（教員の「子どもと向き合う時間の確保」）
 - 「チーム学校」の一員として。

おわりにかえて～子どもの危機と経済的問題

- 未納・滞納問題を抱える家庭・子ども
 - 給食費
 - 授業料
- 社会保障制度的な“理屈”からは“ありえない”とされるが。。。
- 保護者の理解（公の側が支援する）
 - “世の中のしくみ”が複雑に
 - ついていけない保護者の増加
- 学校内の連携協力（管理職、学校事務、教員）
- 行政、幼保～小～中～高、地域、全体の課題

参考文献

- 清原正義『地方分権・共同実施と学校事務』学事出版、2001年
- 木岡一明編著『ステップ・アップ学校組織マネジメント―学校・教職員がもっと元気になる開発プログラム』第一法規、2007年
- 日本スクールビジネス研究会 編『学校経営』(学校マネジメント研修テキスト 4) ,学事出版, 2012年
- 木岡一明編著『教育改革をめぐる重要課題』(学校マネジメント研修テキスト 6) ,学事出版, 2013年
- 窪田眞二・小川友次『教育法規便覧』学陽書房
- 加藤崇英・臼井智美・鞍馬裕美編『教育の組織と経営』学事出版、2014年